



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 18

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 18. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1954, 18: 62-65

ISSUE DATE:

1954-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186864>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会
水族館 月 報

No. 12

1954 2月(3月1日)

冬も去った。気温も水温も徐々に上昇して来て、やがて水槽の魚も活発となり、附近の海では漁も盛んとなって、水族館が春めいて来るのも遠くはあるまい。11日、待望のタカアシガニが持込まれた。4匹(12日捕獲の分も含めて5匹分の支払いをした。)が生きていたが、翌日1匹、14日1匹が死せし。現在2匹が16.のお水槽に生きている。昨年よりも17日早くこのカニを得た事になる。

16.のお水槽のヒーターの調子が思わしくなく、11日早朝16.6に水温が降下し、最後のツノダシが死に類したが、翌12日惜くもことされた。アミモンガラも少しずつ死んでいき、22日にはキハツソノも1匹死んで、この温水槽には現在、アミモンガラ2、ノマノミ1、スズラシ2、キハツソノ2、ヤカノイサギ1、24日新入りのテンス1とヨオジウオ1が入っている。

北海岸の地曳網が19日から始って、気をつけると、少数から変わったものが手に入るようになった。上記のテンス、ヨージソウその他、同日大きなマイカ、小さいシシイカ等を購入した。

雨天の際に玄関前に水がたまって、観光客が難渋するので、思い切って延べ約50米のコンクリート舗装を施した。

昨年10月16日に取決めた明光バス・番所山植物園と水族館との連帯に関する応急口約は2月末日が期限となっていたので、かねて明光・植物園と町・観光協会との間に意見の交換が行われていた。26日に至って観光協会の緊急理事会が開かれて『実験所振興会委員会による決定がある迄、応急口約による連帯入場料を継続しても異議がない』との結論が出たので、町側委員・監事が相談された結果、岩城監事より振興会水族館当番に対して、公式に上記の旨通告があった。そして前記の応急口約は1応2月末日で終了とし、之に若干の修正を加えた取決めのよって、今後委員会の決定がある迄の連帯関係を維持する事につき、明光・植物園と交渉したところ、その了解を得たので、長い間の連帯問題も、ミ、ビー応落着と言う事になった。久しきに亘つて、この問題を真剣に考慮して下さった町側の各委員・監事に対して、心からの御礼を申し述べたい。芝の芽が動いて

来た。

◎ 2月の入場者数

水族館発売切符数

大人 4057
小人 127
団体 3425 } 計 7609

明光バス発売切符数

大人 10152
小人 58 } 計 10210

合計 17819
(累計 189186)

無料入場者 34 (累計 1354)

◎ 2月の収入

観覧券売上金 340,395.00
雑収入 170.00
1月よりの繰越 54,972.00

計 395,537.00

◎ 2月の支出

一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	47,050.00	536,798.00	
光熱費	19,530.00	161,219.00	
消耗品費	1,720.00	31,054.00	
備品費	300.00	18,015.00	
修理費	1,425.00	161,090.00	
材料費	10,260.00	121,390.00	
厚生費	1,685.00	9,225.00	
旅費	5,000.00	5,970.00	
諸税公課	—	48,743.00	
雑費	—	14,282.50	
通信運搬費	1,618.00	17,500.50	
契約金	—	165,300.00	
合計	88,578.00	1,230,487.00	

水族館設備改善費

項目	金額	累計	備考
便所建築費	—	170,400.00	
電話室設備	—	3,565.00	
花壇設置	9,800.00	16,260.00	
壁面塗装工事	30,700.00	67,275.00	
オサガキ程子費	—	40,000.00	
水槽設備工事	—	21,500.00	
水槽設備工事	—	13,160.00	
立札ペンチ	—	14,880.00	
No.23水槽設備工事	—	50,738.00	
蛍光灯及公動機工事	—	43,324.00	
水族館常設設備費	12,500.00	79,500.00	
合計	120,000.00	520,182.00	

実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,966.00	49,709.00	
印刷費	30,000.00	400,000.00	
備品費	—	173,100.00	
設備修理費	—	89,867.00	
特別費	—	50,000.00	
合計	33,966.00	762,676.00	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	3,810.00	61,335.00	
備品費	—	38,493.00	
消耗品費	—	3,111.00	
旅費	—	240.00	
通信運搬費	—	40.00	
修理費	220.00	15,503.00	
合計	4,030.00	118,722.00	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
バスアツツ資金	7000.00	—	100,000.00	
賞工資金	7000.00	—	28,134.00	
厚生資金	3000.00	10,000.00	252.00	春期行楽費として
災害時予備金	50.00	—	22,376.50	南水債引込金1000円
会議費積立金	—	—	40,000.00	
水族館需用材料積立	25,150.00	25,150.00	—	
特別予備金	56,730.00	—	333,940.00	
合計	98,930.00	35,150.00	575,202.50	

支出合計

一般経費..... 88,588.00
 水族館設備改善費..... 120,000.00
 実験所改善費..... 33,966.00
 博物館費..... 4,030.00
 積立金..... 98,930.00

計 345,514.00

3月に繰越し..... 50,023.00

② 2月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(20)	9	5	6
気温	7.5—10.9 8.8	8.7—12.3 11.4	6.7—18.6 12.0
水温	12.2—13.2 12.7	11.4—14.5 12.9	12.8—16.2 14.3

但(気温は南水槽室で10時に測定
水温はNo.28水槽

◎ 2月の魚

現在人目をひいている水槽は No. 28 温水槽、タカアシガニの入っている No. 33、シシイカの群とカブトガニが入っている No. 29、エビスダイと匹を収容している No. 34、4はいのマイカのいる No. 26、2尾のミノカサゴのいる No. 27 の諸水槽であろう。

6日.....テナガダコ死亡

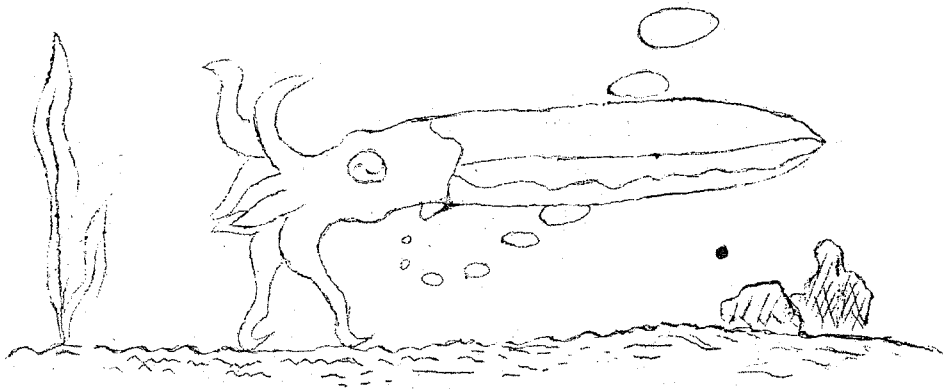
9日.....ヤカタイサギ全滅に頻す。ツボアミに船を泳いで、ハマチ、イサギ・エイ類・マツカサウオを購入し来る。

11日.....タカアシガニと共にシロサメ・ネコサメが入った。ネコサメは少し傷があり27日に死亡。

25日.....南海岸舟着場の附近にプランクトンが蟻集していた中にユキフリンデウオ?を浦さんが見つけて持込んで貰ったが、深海魚の事として、1時間内で死亡してしまった。

スノザラシが興奮した時の体色.....13日生き残った最後のヤカタイサギノ尾を No. 28 温水槽に入れたところ、小型 アミモンガラ 及び スノザラシがこの新入りを激しく攻撃した。特に スノザラシは体を横にくねらふから、ヤカタイサギの前に廻り、その頭を狙い、一時にパツクリとくわえ込んだが、ヤカタイサギは辛くも身を振り切つて逃れる事が出来た。この間に、スノザラシの体色はしきりに灰白色に変じたが、あの漆黒の体色が見ている中に褪めてゆくのは珍しい眺めであつた。

シシイカの海中慢歩.....小なりと虽も コウイカの一族なれば、足を象の鼻の如く垂れ曲げて、ダンマリと水底に沈むは奇異にあらねど、腹側なる2本の腕にて身を支え、時にそれと交互に動かして、水底を匍い歩く様こそは、けだこの1月の間の——小観察の華なれや。



田中隆

◎ 1953年との比較

	1953	1954
入場者	13070	17819
売上金	247,419.00	340,395.00
支出金	230,440.00	345,514.00